

Building Collapse Risk Map

建物の倒壊割合マップ

建築物倒壊比率图 건물 도괴 비율 맵

建物の倒壊割合マップとは？

日本のどこでも起こりうる直下型地震として、狛江市直下でマグニチュード6.9規模の地震が発生した場合を想定し、市内の地形や地質区分などの土地条件などから、地表面における震度分布を50m四方（メッシュ）単位で算出した。

そして、上記算出した震度分布のデータに各建物の構造（木造、非木造）、建築年のデータを加えて50m四方（メッシュ）単位内の建物全壊率（全ての建物の中で揺れにより全壊する建物の割合）を算出し、8段階の色分けにより地域の傾向として示したものです。

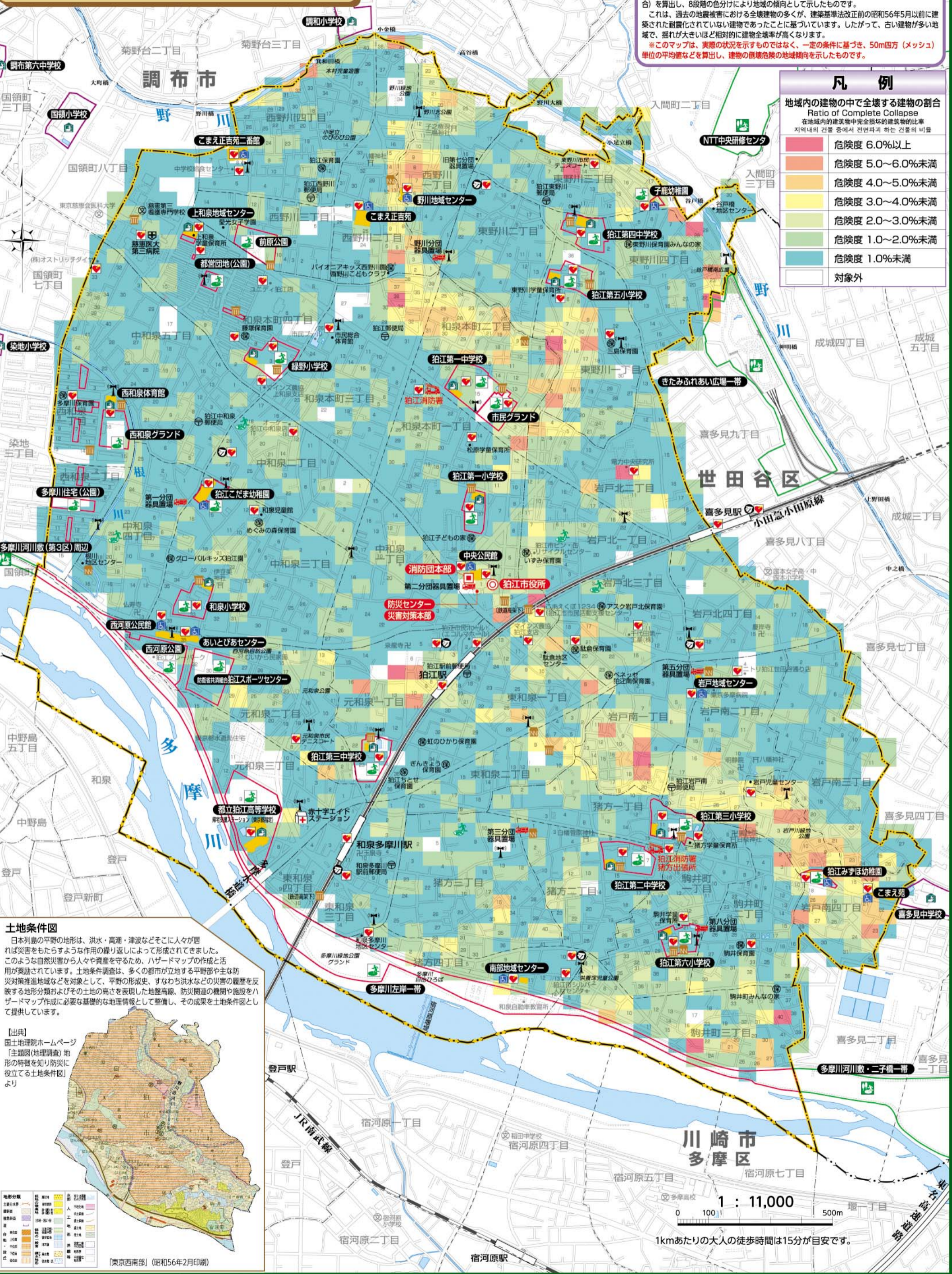
これは、過去の地震被害における全壊建物の多くが、建築基準法改正前の昭和56年5月以前に建築された耐震化されていない建物であったことに基づいています。したがって、古い建物が多い地域で、揺れが大きいほど相対的に建物全壊率が高くなります。

※このマップは、実際の状況を示すのではなく、一定の条件に基づき、50m四方（メッシュ）単位の平均値などを算出し、建物の倒壊危険の地域傾向を示したものです。

凡例

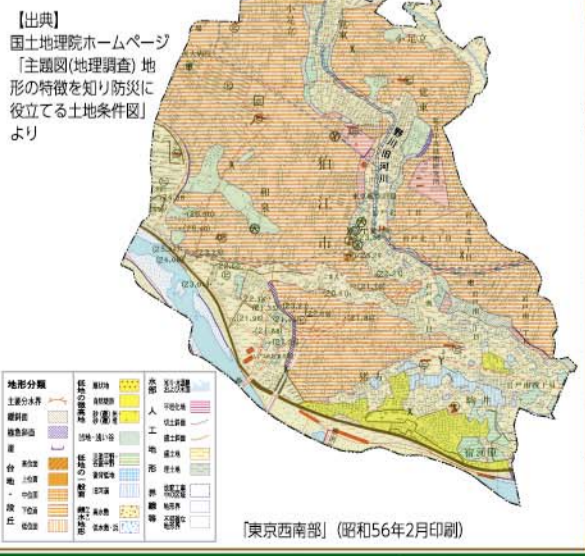
地域内の建物の中で全壊する建物の割合
Ratio of Complete Collapse
在地域内の建築物中完全倒壊の建築物的比率
지역내의 건물 중에서 전연파괴 하는 건물의 비율

危険度 6.0%以上
危険度 5.0~6.0%未満
危険度 4.0~5.0%未満
危険度 3.0~4.0%未満
危険度 2.0~3.0%未満
危険度 1.0~2.0%未満
対象外



土地条件図

日本列島の平野の地形は、洪水・高潮・津波などそこに人々が居れば災害をもたらすような作用の繰り返しによって形成されてきました。このような自然災害から人々や資産を守るため、ハザードマップの作成と活用が奨励されています。土地条件調査は、多くの都市が立地する平野部や主な防災対策推進地域などを対象として、平野の形成史、すなわち洪水などの災害の履歴を反映する地形分類およびその土地の高さを表現した地盤高線、防災関連の機関や施設をハザードマップ作成に必要な基礎的な地理情報として整備し、その成果を土地条件図として提供しています。



1 : 11,000
0 100 500m
1kmあたりの大人の徒歩時間は15分が目安です。